

Y17b 知の構造化と天文学

高梨直紘（東京大学）

人類の歴史の中で現代という時代を特徴づけるとしたら、重要な特徴のひとつは知の総量が急激に拡大する、知のインフレーション期であるという点であろう。研究者人口の拡大と、研究成果の共有化プロセスの効率化が進んだことで、莫大な量の知が日々生産される状況が作り出されている。一方で、我々人類は急激に拡大する知に追いつくことができていない。専門知の先鋭化が進行し、知的体系全体の俯瞰はもちろんのこと、例えば天文学に限定しても全体像の把握が難しくなりつつある。このような状況は研究分野のガラパゴス化が促進され、異なる論理で成り立つ文化とのコミュニケーションを困難なものにしつつある。このような状況を打破するためには、拡大する知を把握可能な形に構造化し、俯瞰的視点の創出を意識的に行う必要がある。これを「知の構造化」と呼ぶ。

本講演では、天文教育普及研究会の2009年の年会特別セッション「天文学は社会に必要か」、2010年の年会テーマ「地域とともにあゆむ天文教育・普及」での議論を下敷きにしなが、知の構造化の文脈から天文学分野における研究論文の生産活動、アウトリーチ活動、教育普及活動、科学コミュニケーション活動の関係性について整理し、望ましい良循環とはどのようなものか、議論を試みたい。